



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

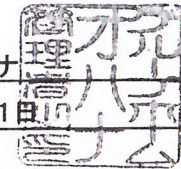
【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念の共有が不十分。	職員全員が理念を理解・共有し事業所のサービスとして実践する。利用者にもう一つの家族と思って頂けるよう信頼関係を築く。	4月に法人理念研修がある為先ずほうじんりねんを充分理解し連動する形で事務所理念への理解を深める勉強会を事務所内で行い、具体的なサービス基準につなげる。その後は理念に基づいたケア基準を確認するため、毎日の朝礼時唱和する。	3ヶ月
2	2	地域とつながりながら暮らし続ける。	地域の中のグループホームとして開かれた施設作りを心掛け、また私達からも地域に積極的に働きかけを行い、地域の子どもから高齢者を持つ家族も気軽に立ち寄れる福祉拠点になりたい。	これまで以上に地域の行事に積極的に参加して地域住民と交流を図る。地区での役割を持ち、清掃活動や認知症高齢者を抱える住民の相談窓口になるなど、こちらから積極的に働きかける。地域の子供との交流を図る。	12ヶ月
3	3	運営推進会議での意見の活用。	運営推進会議で参加者から意見のしやすい活気ある会議の場作りをして、その内容をサービスの向上につなげる。	これまで法人で行っていた運営推進会議を職員自ら企画運営し直接的に意見交換の場に参加しその内容をまた施設職員会議などで共有することで施設の地域での役割の見直しと今後のサービスの向上などにつなげる。	3ヶ月
4	4	市町村と連絡を取り協力関係を築く。	市との協力体制を築き、市と連携を取りケアの在り方やサービスの向上を目指す。	運営推進会議だけでなく、日頃から施設サービスに関する疑問点や困難事例など相談のできる関係を築くなど、こちらからアプローチをして密に交流を図る。	6ヶ月
5	5	身体拘束をしないケアへの取り組み。	身体拘束についてより一層の理解を深め、安易にドアの施錠などしない。	年間研修計画の中で6月に身体拘束についての研修を予定しており研修を通して十分に理解を深め、ドアや窓を開放しても安全に見守りできる管理体制を具体的に考える。	12ヶ月

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームオハナ

作成日: 平成 25年 3月 31日



目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

6	12	重度化・終末期の対応について	終末期の受け入れに向けて方針を策定し近い将来実施できるよう体制を整える。	重度化及び終末期の対応について勉強会を開き外部研修や他事業所との交流を通して事例を当施設に置き換えて検討する。まず常勤看護職の設置を検討する。これらを経て将来に向けての方針が定まれば家族と話し合いに入る。	12ヶ月
7	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保。	尊厳あるケアの実施を重視し安全性を保ちながらも利用者本位で判断し、職員同士が遠慮なくアドバイスできる環境作りをする。	10月に人権・倫理等の研修を予定しており、個人情報に関する規定を繰り返し学び確認する。尊厳あるケアの実施のため認知症を理解し、コミュニケーション技法を身に着ける研修をする。	6ヶ月
8	15	食事を楽しむ事の支援が特定の利用者に限られている。	調理だけでなく食卓の準備も含めできるだけ各利用者が役割を持ち食べるだけでなく、食べるまでのプロセスに喜びを感じてもらう。	調理担当職員を配置し、調理の中で利用者が参加できる作業を介護職が付き添い援助する。調理が苦手な人も、テーブルの準備や食器の整理などできる事、少しでも関心のある事を職員が付き添い関わる中で見つけていく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。